

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《音楽(一般)》

※詳細については、資料Ⅱ(一般-3～一般-6)を参照。

発行者の略称	教出	書名	中学音楽 2・3下 音楽のおくりもの
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① □ 「知識・技能」の習得について、第1学年『Let's Sing!』では、変声期や発音に関して、2・3上下では旋律や形式に関して掲載されている。また、新出用語がページ右下に掲載されている。</p> <p>② □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、音楽を形づくっている要素が『学びのユニット』に示されている。また、他の教材と比較する学習が『深めてみよう』に設定されている。</p> <p>③ □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、全学年の巻頭で、作曲者の話や直筆楽譜が掲載されている。また、歌曲教材には、歌詞と関連のある風景の写真が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ □ [思いやる力]の「人権教育」について、合唱曲では、命の大切さに関する歌詞が掲載されている。また、文化の多様性や特徴を考える学習が『何が同じで何が違う?』に設定されている。</p> <p>⑤ □ [たくましく生きる力]について、『作曲者の思いにふれる』では、強い意志で生涯に渡り音楽に携わった作曲家の話が掲載されている。</p> <p>⑥ □ [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、2・3下の学習資料には、地域に音楽活動が果たす役割などの事例が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ □ 主体的・対話的で深い学びについて、構成を比較したり、表現を工夫したりすることについて、各単元の『ACTIVE! すすんで学び合おう』では、話し合い活動が設定されている。</p> <p>⑧ □ カリキュラム・マネジメントについて、理科との関連として、音の速さなどが『音ってなあに?』に掲載されている。また、世界の音楽について歴史的背景が掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ □ 言語能力の育成について、鑑賞教材に、感想や批評を伝え合う活動『話し合おう』が設定されている。また、意見交換をする活動『Let's Sing!』が掲載されている。</p> <p>⑩ □ 伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では和楽器や日本とアジアの声による表現、2・3上下では歌舞伎や文楽、能、郷土の芸能などが取り上げられている。</p> <p>⑪ □ 体験活動の充実について、『指揮をしてみよう』では、拍子の振り方からテンポの変化、終わり方の解説が掲載されている。また、鑑賞と関連付けて、口三味線を体験する学習が設定されている。</p> <p>⑫ □ 学校段階間の円滑な接続について、ソプラノリコーダーの二重奏用の楽譜が『アニーローリー』に掲載されている。また、変声期に関する解説が『Let's Sing!』に掲載されている。</p> <p>⑬ □ 情報活用能力の育成について、2・3下では、インターネット配信による鑑賞や楽譜制作ソフトによる創作などの活用事例が掲載されている。</p> <p>⑭ □ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習目標は白抜き文字で縦に記載されており、作曲者名、楽器名などにはルビが振られている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ □ 各題材には、音楽を形づくっている要素が示されている『学びのユニット』がある。また、感想の記述や話し合い活動の学習が設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ □ 主体的・協働的な学習について、音楽を形づくっている要素を手掛かりに、曲想の変化について考えたり、話し合い活動をしたりする学習が『どんな特徴があるかな』に設定されている。</p> <p>⑰ □ 系統的・発展的な配列について、『故郷』は、同声二部合唱から混声三部、混声四部へと発展している。また、知識・技能を活用する学習が『深めてみよう』に設定されている。</p> <p>⑱ □ 音楽文化の理解について、諸民族の音楽の固有性や多様性について比較するなどの学習が『何が同じで何が違う?』に設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ □ 本編は表現(歌唱、創作)、鑑賞の順に、二つの領域が配列されている。</p> <p>⑳ □ 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ □ 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『学習目標には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《音楽(一般)》

※詳細については、資料Ⅱ(一般-3～一般-6)を参照。

発行者の略称	教芸	書名	中学生の音楽 2・3下
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、第1学年『My Voice!』では変声期に関して、2・3上下では息の流れに関して解説が掲載されている。また、新出の用語がページ右上に掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、表現の工夫に関して仲間と意見交換する学習が『深めよう! 音楽』に設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、著名人からのメッセージが掲載されている。また、『曲の良さをプレゼンしよう』では、話し合い活動が設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、合唱曲では、仲間との絆を讃える歌詞が掲載されている。また、2・3下では、外国での音楽教育による支援活動に関する内容が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]について、巻頭に、著名人から中学生に贈ったメッセージが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、『生活や社会の中の音楽』では、第1学年において地域の伝統文化や企業の活動と、音楽の関わりが紹介されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、キャラクターの吹き出しを参考にして、表現の工夫などを考える『深めよう! 音楽』が設定されており、話し合い活動が設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、2・3上では舞台芸術との関わりが示されている。また、2・3下では、国語科や社会科と関連して「平家物語」について掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、批評した内容を、発表する学習が設定されている。また、表現方法について意見交換をするためのワークシートが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では箏曲や日本の民謡など、2・3上では長唄や義太夫節など、2・3下では尺八音楽や能などが取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『指揮をしてみよう』では、拍子の取り方から表現方法までの学習が掲載されている。また、鑑賞と関連付けて「能」の謡や舞を体験する学習が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、第1学年で冒頭の歌唱教材において、作曲家から新入学生へのメッセージが掲載されている。また、変声期に関する解説が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、2・3上で、郷土芸能や祭りについての学習として、インターネットなどを活用して調べる、情報活用の事例が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習の困難さに応じた工夫について、学習目標は黒文字で縦に記載されている。また、作曲家、楽器名などにはルビが振られている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 目次に、各題材に関する学習指導要領の内容が線で結ばれて掲載されている。また、各題材の学習目標の下には、音楽を形づくっている要素が記載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 主体的・協働的な学習について、聴取したことと感じたこととの関連を記述するワークシートが『深めよう音楽』に掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 系統的・発展的な配列について、『ふるさと』では、混声二部合唱から混声三部、四部へと発展している。また、豊かな発声や響きについての学習が『My Voice!』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 音楽文化の理解について、2・3下では、社会と音楽との関わりについて『社会を映し出す音楽』が掲載されている。また、地域の伝統について考える学習が設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 本編は表現(歌唱、創作)鑑賞の順に、二つの領域が配列されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應することを目指してデザインしています。』『特別支援教育の視点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《音楽(一般)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
教出	「知識・技能」の習得について、第1学年『Let's Sing!』では、変声期についての説明や発音に関して、2・3上下には旋律のまとまりや形式に関して解説されている。また、表現に必要な知識として、音楽用語や記号などがページ右下及び巻末の『楽典』のページにも掲載されている。
教芸	「知識・技能」の習得について、第1学年『My Voice!』では変声期や発声、呼吸について、2・3上下では息の流れや響きに関して、それぞれ解説が掲載されている。また、表現に必要な知識として、新出の音楽用語や記号などがページ右上及び巻末の『音楽の約束』にも掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年の教材に『学びのユニット』として、学びの手掛かりとなる、音楽を形づくっている要素が示されている。教材のページ左下に『比べてみよう』『深めてみよう』がマークで示され、他の教材と比較することで特徴やよさを考える機会が設定されている。
教芸	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『My Melody』でキャラクターの吹き出しにより、表現の工夫や曲の特徴を捉える際の着眼点が示されている。また、『深めよう!音楽』では、表現の工夫に関して考え、仲間と意見交換する活動例が示されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭に『作者の思いにふれる』として第1学年ではシューベルト、2・3上ではベートーヴェン、2・3下では滝廉太郎が、音楽と関わってきた話が掲載されている。また、全学年の『日本の歌、みんなの歌』では歌詞と関連のある風景の写真が掲載されている。
教芸	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭では、第1学年では野村萬斎、2・3上では松任谷由実、2・3下では谷川俊太郎、木下牧子の音楽への思いや、人生観が掲載されている。また、巻末の『曲の良さをプレゼンしよう』では、話し合い活動の学習が設定されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
教出	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年の合唱曲『明日を信じて』の歌詞には、命の大切さに関する内容が掲載されている。また、『何が同じで何が違う?』において世界の舞台芸術や楽器の特徴の違いなどから、それぞれの文化の多様性について考える学習が設定されている。
教芸	[思いやる力]の「人権教育」について、全学年において仲間との絆を讃える歌詞や、2・3上下では震災からの復興に関する合唱曲が掲載されている。2・3下での『生活や社会の中の音楽』では、SDGsに関連した外国での音楽教育による支援活動が掲載されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
教出	[たくましく生きる力]について、『作曲者の思いにふれる』で、全学年において、シューベルト、ベートーヴェン、滝廉太郎の言葉が紹介され、それぞれが強い意志をもって、生涯にわたり音楽に向かった話が掲載されている。また、2・3上では、『私たちのくらしと音楽』において著作権について考え、意見交換する学習が設定されている。
教芸	[たくましく生きる力]について、全学年の巻頭において、野村萬斎、松任谷由実らから、中学生に贈ったメッセージが掲載されている。また、『ルールを守って音楽を楽しもう』では、著作権について正しい知識をもったうえで、音楽の楽しみ方について話し合う学習が掲載されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
教出	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、2・3下の学習資料として『私たちの暮らしと音楽～アウトリーチ・教育活動・音楽療法』では、音楽活動が、地域貢献活動としての役割も果たしている事例が掲載されている。また、合唱曲『ほらね』では、周りの人々と支え合って生きていく、といった内容の歌詞が掲載されている。
教芸	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年の『生活や社会の中の音楽』では、地域の伝統文化や企業の活動において、音楽との関わりが紹介されている。また、2・3下の『歌い継ごう日本の歌』では、震災復興支援の一環で作られた合唱曲『花は咲く』が掲載されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
教出	主体的・対話的で深い学びについて、全学年において、歌唱、創作、鑑賞に『ACTIVE! すすんで学び合おう』が設定されている。キャラクターの吹き出しを参考にしながら、音楽の構成を比較したり、表現を工夫したりすることを学ぶ、話し合い活動による学習が設定されている。
教芸	主体的・対話的で深い学びについて、全学年において、表現・鑑賞で『深めよう! 音楽』が設定されている。キャラクターの吹き出しを参考にしながら、音楽の構成を比較したり、表現の工夫、曲想の理解について考える、話し合い活動による学習が設定されている。
⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
教出	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、『音ってなあに?』で理科と関連した音の出る仕組みや、音が伝わる速さについての解説が掲載されている。また、2・3下では「日本と西洋の音楽の歩み」で、日本と西洋の音楽の発展の歴史について対比させながら掲載されている。
教芸	カリキュラム・マネジメントについて、2・3上では舞台芸術との関わりが示されている。また、2・3下では、国語科や社会科と関連して、平家物語が琵琶法師により語られ、後世の芸能に影響を与えた内容について掲載されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
教出	言語能力の育成について、全学年において、鑑賞教材に『話し合おう』の記入欄が設けられており、感想や批評を話し合う活動が設定されている。また、2・3上の『Let's Sing!』では、意見交換を通して、表現方法を考える学習活動が設定されている。
教芸	言語能力の育成について、第1学年と2・3下の『曲のよさをプレゼンしよう』では、音楽について批評した内容を、プレゼンする学習活動が設定されている。また、全学年において『深めよう! 音楽』では、自分がどのように表現したいかについて、意見交換をするためのワークシートが掲載されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では箏曲、尺八音楽、日本とアジアの声による表現、2・3上では雅楽、舞楽、郷土の音楽や芸能、能、2・3下では歌舞伎、長唄、文楽などが取り上げられている。
教芸	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では雅楽、箏曲、日本の民謡、2・3上では長唄、義太夫節、郷土の芸能、2・3下では尺八音楽、能、沖縄民謡などが取り上げられている。
⑪ 体験活動の充実	
教出	体験活動の充実について、『Let's Try!』での『指揮をしてみよう』では、第1学年では4拍子の振り方と、強弱の付け方について、2・3上ではテンポの変化や、終わり方についての解説が掲載されている。また、2・3下の『長唄 勸進帳をうたおう』では、口三味線を体験する学習が設定されている。
教芸	体験活動の充実について、全学年の『指揮をしてみよう』では、指揮者の山田和樹の話とあわせて、第1学年では、速度、強弱、旋律、構成をポイントに設定しており、2・3上では、音色、旋律、テクスチュア、強弱について振り方を考える学習が設定されている。また、鑑賞と関連付けて能『教盛』の話や舞を体験する学習が掲載されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
教出	学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、冒頭の教材『アニーローリー』において、ソプラノリコーダーの二重奏用の楽譜が掲載されている。また、『Let's Sing!』では、変声期に起きる音域の変化や無理のない発声に関する解説が掲載されている。
教芸	学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、冒頭の2曲の歌唱教材において、作曲者から新入学生へのメッセージが掲載されている。また、『My Voice!』では変声期について、そのしくみと音域の変化、心がけることについて学ぶ内容が掲載されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
教出	情報活用能力の育成について、2・3下では、学習資料『コンピュータと音楽』が掲載されている。インターネット配信を利用した鑑賞に加え、楽譜制作ソフトによる創作や作曲、シーケンス・ソフトによる伴奏やパート練習への活用など、コンピュータを使用した学習例が掲載されている。
教芸	情報活用能力の育成について、2・3上では、『受け継ごう! 郷土の祭りや芸能』において、日本各地の郷土芸能や祭りを調べて、他の地域の人に紹介する学習例として、インターネットなどを活用して調べる情報活用例が掲載されている。

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
教出	学習上の困難さに応じた工夫について、全学年において、歌唱教材では、新出の音符や記号などある場合、右下に○囲みで記載されている。学習目標は白抜き文字で縦に記載されており、作曲者名や日本音楽の楽器名や用語などには、ルビが振られている。
教芸	学習上の困難さに応じた工夫について、各学年において、歌唱教材では、新出の音符や記号などある場合、誌面右上に記載されている。また、学習目標はゴシック体の黒文字で縦に記載されており、下には手掛かりとする音楽の要素が表示されている。作曲者名や日本音楽の用語などにはルビが振っており、西洋の作曲者名はカタカナ表記されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
教出	全学年において三つの領域にそれぞれ主要教材が指定されており『ACTIVE!』が設定されている。また『学びのユニット』には、各教材の、音楽を形づくっている要素が表示されている。『ACTIVE!』では教材に対する具体的な学習例が示されており、感想の記述や、話し合い活動の学習が設定されている。
教芸	全学年において目次の次のページに、1年間の学習内容が見開きでまとめられている。各教材に関連する学習指導要領の内容が線で結ばれている。また、各教材の学習目標の下には、音楽を形づくっている要素のうち、該当するものが記載されている。
⑯ 表現及び鑑賞の基礎的な能力を養うために、[共通事項]をよりどころとして、主体的・協働的な学習の展開が図られるような工夫や配慮がなされているか。	
教出	主体的・協働的な学習について、全学年において音楽を形づくっている要素が『学びのユニット』にまとめて示されている。1年、2・3上では、『どんな特徴があるかな』の中で、要素の変化と、曲想の変化との関連について考え、話し合う学習が設定されている。
教芸	主体的・協働的な学習について、全学年において、全教材名の真下には、音楽を形づくっている要素を明示した学習目標が記載されている。また、『深めよう音楽』では、音楽の要素を手掛かりとして、聴き取ったことと感じ取ったことの関連について記述するワークシートが掲載されている。
⑰ 「A表現」や「B鑑賞」の教材は、学習を積み重ねていくことができるよう、系統的、発展的に配列されているか。	
教出	系統的・発展的な配列について、『故郷』の歌唱では、学年が上がるに従って、同声二部合唱から混声三部、混声四部へと発展されている。また『深めてみよう』により、新たに得た知識・技能が別の教材でも関連付けられるよう、教材配列がされている。
教芸	系統的・発展的な配列について、『ふるさと』の歌唱では、学年が上がるに従って、混声二部合唱から混声三部、混声四部へと発展している。また、『My Voice!』では、豊かな発声について、学年が上がるごとに姿勢や呼吸、息の流れのイメージ、豊かな響きへと、配列されている。
⑱ 音楽文化の理解について、多様な音楽を、身の回りの生活や社会と関連させながら学習するための工夫や配慮がなされているか。	
教出	音楽文化の理解について、『何が同じで何が違う?』では、世界の諸民族の音楽の固有性や多様性について比較し、仲間と対話を通して考えを交流させる学習が設定されている。また、『ポピュラー音楽図鑑』では、19世紀から現代までの新しい音楽文化について掲載されている。
教芸	音楽文化の理解について、2・3下では、特集『社会を映し出す音楽』において、社会と音楽との関わりについて掲載されている。2・3上では『受け継ごう、郷土の祭りや芸能』では、地域の祭りや芸能について調べることで、どのように継承していくかといった学習の機会が設定されている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
教出	見開き2ページの目次には、歌唱、創作、鑑賞の各分野ごとに『主要教材』が示されており、本編は表現（歌唱、創作）鑑賞の順に、二つの領域が配列されている。また、後半には合唱曲集が掲載され、巻末には楽器図鑑や楽典のまとめが掲載されている。
教芸	見開き2ページの目次では、資質・能力の三つの柱ごとに各題材が掲載されており、音楽を形づくっている要素も示されている。本編は表現（歌唱、創作）鑑賞の順に、二つの領域が配列されている。また、巻末には楽器図鑑や楽典のまとめが掲載されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
教出	判型はA4変型判が採用されている。
教芸	判型はA4変型判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『学習目標には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
教芸	『全ての生徒の色覚特性に適応することを目指してデザインしています。』『特別支援教育の視点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
教出	1 58ページ 「からたちの花の小径」（神奈川県） 2・3上 口絵① 辻堂海岸の写真（神奈川県） 2・3上 14～15ページ「夕暮れの辻堂海岸」 2・3下 18ページ 滝廉太郎（横浜で育つ） 2・3下 59ページ 神奈川フィルハーモニー管弦楽団
教芸	1 24～27ページ 辻堂海岸の写真（藤沢市） 1 62ページ 箱根馬子唄 2・3上 48～49ページ 横浜シンフォニエッタ、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の皆さん 2・3上 69ページ チャッキラコ

② URL、二次元コード等の掲載の有無					
発行者名	1年	2・3 年上	2・3 年下		
教出	有	有	有		
教芸	有	有	有		

③ 一冊ごとの重量(g)					
発行者名	冊数	1年	2・3 年上	2・3 年下	
教出	3	199	199	200	
教芸	3	207	208	206	